

令和4年度病害虫発生予察指導情報
 対象病害虫：ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ（野菜）

令和4年9月30日
 鳥取県病害虫防除所

1 ハスモンヨトウ

(1) 発生状況

9月第5半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、平年に比べ大山町でやや多く、北栄町でやや少ない。

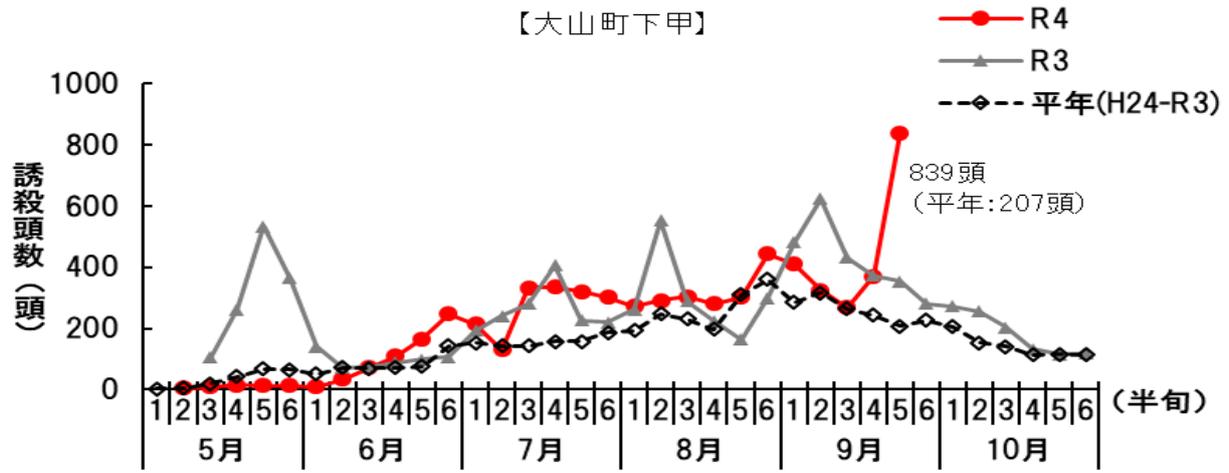


図1-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数 (調査地点：大山町下甲)



図1-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数 (調査地点：北栄町由良宿)

- (2) 9月26日の巡回調査の結果、県西部現地ブロッコリーほ場における発生量はやや多く、県中部現地ブロッコリーほ場における発生量は平年並だった。また、一部ほ場において卵塊が確認された。
- (3) 誘殺数が増えているため、今後、次世代の産卵数および食害被害が増加することが懸念される。

2 シロイチモジヨトウ

(1) 発生状況

9月第5半旬現在、フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数は、米子市でやや多く、北栄町で平年並である。

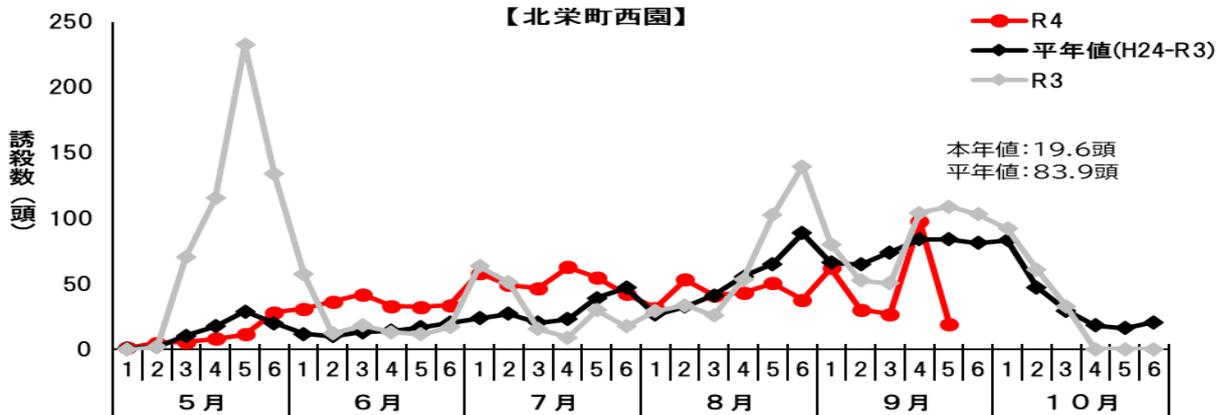


図2-1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数 (調査地点: 北栄町西園)

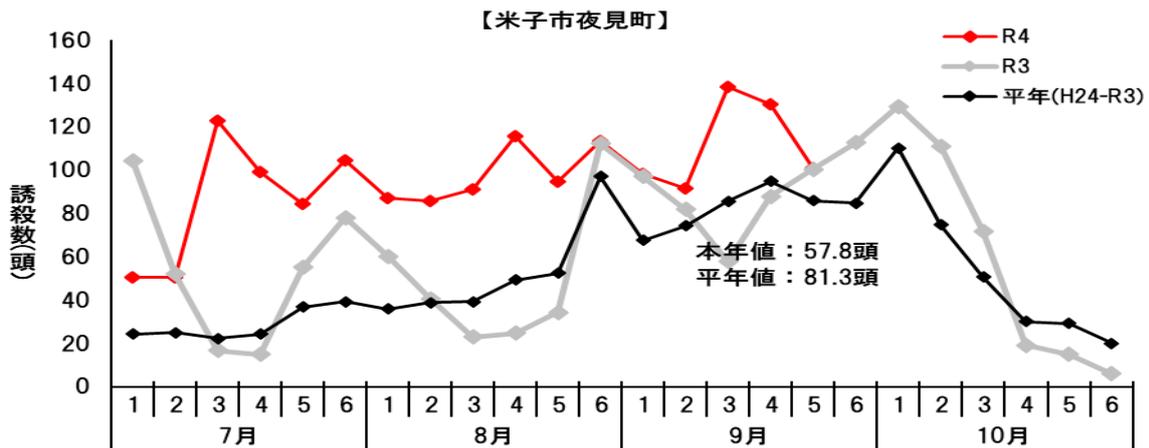


図2-2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数 (調査地点: 米子市夜見町)

- (2) 9月26日の巡回調査の結果、県西部現地ネギほ場におけるシロイチモジヨトウの発生量はやや多い。
- (3) 誘殺数が増えているため、今後、次世代の産卵数および食害被害が増加することが懸念される。

3 防除上注意すべき事項

(1) 野菜(キャベツ・ブロッコリー・ネギ)

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫(体長1cm以下)のうちに防除を行う。食害痕が見られ始める頃が防除適期である。
- イ 食害痕は不整形の白斑となり、さらにかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕の目立つ株に注意する。
- ウ 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。